

第42回国際理解バス

国際理解バス部長 中島千恵美



8月24日、市内の小中学校から応募で選ばれた36名と共にメキシコ大使館と JICA 地球ひろばへ向けて出発。この理解バスは高崎ユネスコ協会員が児童生徒を県外へ引率する唯一の事業であり、今回で42回を数えます。事業の特徴として、参加者自身が目的を持ち自主的に学習することが挙げられ、協会員はその支援をします。

バスの中は担当が脳トレ問題を用意したり、メキシコ大使館の方からの高崎についての質問に答えられるような話題を入れたりして、終始リラックスできるように進めました。児童生徒のコミュニケーション力は素晴らしく、車中の声量で打ち解けている様子がわかりました。



午前中の訪問先メキシコ大使館は、広い庭のたくさんの団扇サボテンに迎えられ、レセプションルームで政治部から英語と日本語でメキシコと日本の友好の始まりや歴史をプレゼン。文化部からは英語で世界遺産やメキシコ人のアイデンティティ等をプレゼンされ(概略は通訳あり)、その後たくさんの質疑応答。大使館からの要望でもある文化交流には館員が7名も参加。空手や剣道に興味津々で見入ったり、プレゼントを手交したりしました。「ハイビスカスジュース」も思い出になりました。





午後は JICA で昼食。エスニック弁当とフルーツ、飲み物。日本料理にはない香辛料の味と香りで、急に外国を感じたひと時でした。完食している姿を見て、子どもたちの柔軟さに何となく頼もしさを感じました。

その後受講研修。始めにキルギスへ派遣された青年海外協力隊の美術教師から「ない(無い)」ことを考えるきっかけをいただきました。その後、地球ひろばで自主研修。ひろばはSDGsが主要な展示になっており、持続可能な17の目標を様々な角度から学習できるように工夫されていました。



猛暑の中、保護者の健康管理で全員が参加できたこと、加えて市民部防犯・青少年課の細部にわたるご指導で本事業が終了できたことに感謝いたします。

